

史跡益田氏城館跡整備基本計画 修正箇所

P.	段落	修正前	修正後	修正理由
1	3	<p>昭和 58(1983)年の山陰豪雨災害により甚大な被害を受けた益田市では、防災道路の一環として都市計画道路沖田七尾線^{おきたななおせん}を都市計画決定した。<u>この道路は当時県史跡であった三宅御土居跡を縦断することから、昭和 59(1984)年 8 月から始まった工事はいったん中断し、益田市は三宅御土居跡、七尾城跡の実態を解明するための発掘調査に着手した。一方で、当面の解決策として、平成 6(1994)年に、都市計画及び歴史学の研究者と建設省(当時)、文化庁、県の協力を得て「益田市歴史を活かしたまちづくり計画」を策定した。</u>この計画に基づいて、道路は遺構を保護する工法で整備し、^{きょうおんじ}暁音寺鍵曲がり^{きょうおんじ}を保全した施工区間と合わせて、平成 14(2002)年 3 月に完成した(愛称:七尾城通り)。平成 16(2004)年 9 月 30 日には、遺跡の価値を踏まえ、両遺跡が一括して「益田氏城館跡」の名称で国の史跡に指定された。</p>	<p>昭和58(1983)年の山陰豪雨災害により甚大な被害を受けた益田市では、防災道路の一環として都市計画道路沖田七尾線^{おきたななおせん}を都市計画決定した。<u>昭和59(1984)年8月から道路整備工事は始まったが、この道路が当時県史跡であった三宅御土居跡を縦断することから、学術団体や市民団体から保存要望書の提出が相次ぐなど保存運動が活発化し、工事はいったん中断した。そのような中、益田市は三宅御土居跡、七尾城跡の実態を解明するための発掘調査に着手する一方で、歴史学と都市工学の学識経験者及び建設省(当時)・文化庁・島根県・益田市の関係機関による「益田市歴史を活かしたまちづくり研究会」を設置し、まちづくりのあり方と対応方針の検討を行った。さらに、この研究会からの提言を受けて、益田市の各分野代表者による「益田市歴史を活かしたまちづくり検討委員会」を設置して検討を行い、平成 6(1994)年に「益田市歴史を活かしたまちづくり計画」を策定した。</u>この計画に基づいて、道路は遺構を保護する工法で整備し、^{きょうおんじ}暁音寺鍵曲がり^{きょうおんじ}を保全した施工区間と合わせて、平成 14(2002)年 3 月に完成した(愛称:七尾城通り)。平成 16(2004)年 9 月 30 日には、遺跡の価値を踏まえ、両遺跡が一括して「益田氏城館跡」の名称で国の史跡に指定された。</p>	<p>30年前の三宅御土居跡における道路建設計画を発端とした、市民や研究者等による保存運動についての記述がないとの意見があったため。</p>